



高塚准教授(中央)の質問に答える児童(右)の発表を聞く児童たち

## あいさつが大切

28 6.22  
伯耆二部と溝口小児童  
仲良くなるひけつ学ぶ

コミュニケーション能力を磨くための「向き合う力を育むコミュニケーション講座」がある。

17日、伯耆二部の二部小学校であり、二部溝口両小学校の4年生合わせて22人が、良好な関係を築くため、あいさつの大切さなどを学んだ。

同町の旧溝口町内にある3小学校を中心に保育所と小中学校が本年度から、鳥取大学の協力で医学部の高塚人

また、自己紹介をした後、自分の名前と友達や先生の名前で共通する読み仮名を見つけて、全員の名前を一つにつなげることをし、一人一人は外見や考えが違ってもつながっていることを実感した。

初回のこの日は、高塚准教授が「お互いが気持ちよく過ごすために」として、あいさつには相手を気遣う気持ちが込められていることを強調。さらに、高塚准教授の手の動きをまねするゲームを通して、児童たちは相手をしっかりりと見ることの大切さを感じた。

本年度は小学校全学年で計10回の講座を予定している。

(井川広志)